

決算審査特別委員会会議録

- 1 開会日時 平成25年9月4日(水)午後1時54分
- 2 閉会日時 平成25年9月4日(水)午後2時17分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1 番 佐々木雄司君 4 番 保田 守君 7 番 原田 素代君
8 番 金谷 文則君 11 番 北川 勝義君 13 番 福木 京子君
15 番 岡崎 達義君 18 番 小田百合子君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
な し
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 富山 義昭君 主 査 青木 智彦君
- 8 協議事項 1) 委員長、副委員長の互選について
- 9 議事内容 別紙のとおり

午後1時54分 開会

○議会事務局長（富山義昭君） それでは、おそろいようですので、ただいまから決算審査特別委員会の委員長、副委員長の互選を行っていただきますが、赤磐市議会委員会条例第10条第2項の規定によりまして、委員長、副委員長がともにいない場合は年長の委員が委員長の職務を行うとありますので、年長委員の岡崎委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○副議長（岡崎達義君） それでは皆さん、お疲れのところお集まりいただきましてありがとうございました。

それでは、委員長の互選について行いたいと思います。互選の方法はいかがいたしましょうか。立候補される方がいらっしゃったらしてください。推薦ありますか。

○委員（保田守君） 私は、原田委員を推薦いたします。

○副議長（岡崎達義君） 北川委員。

○委員（北川勝義君） 立候補、推薦というて、今何しようかというて方法を言うたんじゃろ。誰を推薦とかという話じゃねかろう。今言やあ立候補とか推薦というたりするのもあるんじゃけど、立候補でもええし推薦でもええ、両方どっちでもええというたらおかしいんじゃけど、立候補はねえんじゃねえかと思ひます。推薦すりゃあええんじゃねえかと思ひんのですけど。それにさせていただけりゃあ簡単でええと思ひ。

皆がええかというんだけ、承諾。

○副議長（岡崎達義君） 皆さんよろしいですか、推薦で。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（岡崎達義君） 保田委員。

○委員（保田守君） 私は、原田委員を推薦いたします。

○副議長（岡崎達義君） はい。ほかには。

はい、北川委員。

○委員（北川勝義君） 決算審査で、ここで決算委員になられとった方じゃのうて、言い方は悪いけど丸山さんのかわりに出てこられたんかな。それから、山下さんのかわりで出てこられたんかな。そういうなんもあるんのですけど、今までベテランでやられてたのもある、わかるのもあるんで、どなたでも結構と思ひてやってもスムーズにやってもらわにやおえんし審議してもらわにやおえん。だてや酔狂で自分の思ひどおりで勝手にやられたりしたらたまったもんじゃねえんで、そういうこともあるんで、金谷さんをさせていだきたいと思ひます、委員長に。せえで、もうこれは多数決でどうこうじゃというんじゃのうて、やはりベテランでやったほうが。こんなことを言うちゃあおえんけど、決算審査をやらせてもろうたんが、今まで佐藤さんがせられて僕が3遍ほどして金谷さんが1遍ほどしてぐらいになつとんのですよ。じゃから、金谷さんなれとるからやられたらええんかなあと思ひまして今言よんで。せえで、別に2

日間あるのを3日間せえというようなそんなむちゃな話はせん。原則的にはできんと思うんで、質問もあつたり時間もかかると思う、スムーズにやらせてもらうべきで、あえて金谷さんにやらせてもらうたらええんじゃねえかと思うて言よんです。せえで、発言をとめられるという事は絶対、勝手なときにとめられたらいけんから、意地になるんじゃねえんですよ。僕はかえって今回は、今までもしとうねえんでも委員長を受けてやつとったんです。せえで、批判ばあされるんじやったら委員長をせんでもええ。僕はずうっと質問をさせてもらいますから。委員長、副委員長はやってもらやええ思よう。納得いくことをやらせてもらいてえんで。ただ、時間もとってやりてえという本当は気持ちなんです。しかし、そういうことは不可能な。委員長が今言われようるそういうことは議長、難しいから。日にちをもう2日間なら2日間切らせてもろうて、できるなら6時半とか……。

○副議長（岡崎達義君） それは委員長の采配ですから……。

○委員（北川勝義君） いや、委員長の采配でも質問が……。

○副議長（岡崎達義君） 私がとやかく……。

○委員（北川勝義君） 違う違う、じゃから今お願いしょんが、采配をどうこうやられて2日間ですよ、3日間とりますというようなことはできませんので、勝手にやることの横暴なことをやられたら困るんで。今までは仕手がなかってやられとったんじやけど、そういう考えを持って言わせて。

○副議長（岡崎達義君） ご意見としては承っておきます。

どうぞ、福木委員。

○委員（福木京子君） いろいろ今意見を言われたけど、それぞれ意見があると思うけど、2日になるか3日になるかそれは審議状況にもなると思うんで。私は原田さんを推薦いたしたいと思います。

○副議長（岡崎達義君） 一応推薦された方が2人いらっしゃいますんで、選挙ということになりますよね。それでよろしいですか。

○委員（北川勝義君） ちょっと先言わせて。もうこんなことになって、選挙とか一々するようなことは僕はすべきじゃねえと思うとん、話し合いでびっとすりゃあええんじやえど。これで、後から言うてやられるんじやったらまたやられて、私はもうこんなことを言うたらおかしいですけど、僕も体調悪いから。原田さんと審議するんじやったらしとうねえから、一般質問で聞かせてもらえから。もう私がよろしいというて勝手にこうやってやられるんじやったら、やってもらやええから。僕は総務文教委員会、これから開いてかわらせてもらいますから。僕はもうこんなことやるんじやったらだりいから、1日が楽しゅうのうて事業できんから、悪いですけど独断でやられるのは嫌ですから。

○副議長（岡崎達義君） それは……。

○委員（北川勝義君） いや、今さらできんというて本会議へ戻してもらやあよろしい。今ま

でもやったがな。結果的に病気でやると同じですが。

○副議長（岡崎達義君） それはちょっと。

はい、どうぞ。

○議長（小田百合子君） 違うんですよ、私が言おうとするのは、推薦された御本人たちにやる気があるかどうかをやはり確認していただいたほうがいいと思います。

○委員（北川勝義君） いや、ここじゃったら3対3になったりしたらな……。

○議長（小田百合子君） だから、本人たちが全然……。

○副議長（岡崎達義君） 今、議長の御意見がありましたけどどんなですか。

○委員（原田素代君） その前に、同僚議員からそういう言い方をされるのは大変不愉快です。そもそも、その推薦方法について発言をする前に、あなたとやるのなら私はおりるといような発言は余りにも大人げがない。

○委員（北川勝義君） 違います。また、言ようること。さきに推薦決まる前に……。

○委員（原田素代君） 今のような発言は訂正していただきたいと思います。

○副議長（岡崎達義君） それで、その意思のほうはどんなですか。

○委員（原田素代君） もちろん受けさせていただきます。

○副議長（岡崎達義君） 金谷議員は。

○委員（金谷文則君） いいですよ。

○副議長（岡崎達義君） ほんなら、どっちもが受けるということですので、話し合いというわけにもいかんでしょう。

○委員（北川勝義君） いや、僕はじゃけえ、委員長、悪いけどかわってもらうからな、体調が悪いから。

○委員（原田素代君） そんな筋が通らないことを……。

○委員（北川勝義君） ちょっと黙ってくれ。人が言ようるときに……。

○副議長（岡崎達義君） いやいや、ちょっとそれは筋が通らんでしょう。

○委員（北川勝義君） 筋が通らんでもよろしい、今回は。

○副議長（岡崎達義君） 筋が通らんでもよろしいという話じゃないでしょ。

○委員（北川勝義君） 岡崎さん、そうじゃのうてな、初めからやるのに議事を何時にせにやおえんとか、何時にせにやあ予備日とりやええんとか、こんなこと初めからちやあちやあちやあちやあ後から入った者に言われたらたまったもんじゃねえということ……。

○副議長（岡崎達義君） それは委員長に決まって、委員長の采配として2日間で3日間になるかもわからんということはあるわけですから。

○委員（北川勝義君） そういう話をしょんじゃのうて、初めからそういう話を予備日があるんじゃからやりやあええとかという発言をすることは、人が言うたら言葉尻をとってやるんじゃねえんで、そういうことじゃったら僕としてもやるのがやっぱり不本意なというて言うん。

本当に、ずっと今まで決算審査をやってきて、決算の間違ひを見つけたりずっとしてきたのに、僕はやりてえとかよんじゃねえ。やってもらやええと思う。金谷さん適任で前もスムーズにやったからと思うて思ゆるだけで、そう簡単にできん、途中まできたらもう頭が痛え、帰りてえ、そんな話ばあしょうたようなもんが、もうなんでそがあな。僕はそんな無責任なことをしとうねえ。かえって僕の言ようことが無責任か、どっちが無責任か、皆さんに判断してもらやあよろしい。

○副議長（岡崎達義君） だから、選挙したらいいんじゃないですか。皆さんどうですか。御意見。

○委員（北川勝義君） 選挙はすりゃあええんじや。選挙するというような話じゃのうて、初めからやっぱり……。

○副議長（岡崎達義君） それはよろしいわ。今の考え方はよくわかりました。わかりましたけど、途中でかわるといのは病気とかそういうのがあればともかく、それは許されないと思いますので、議員の責任としてね。

○委員（北川勝義君） 無責任なことを岡崎さん、岡崎さんじゃけえあえて話しよう。委員長に相対することはいけんかもしれん、こんなことは。どなたがしてもええんじやけど、ただ僕の言いたかったんが、そういう発言をされたらやっぱりかちっと来るんがあつたんで。やっぱり自分ができんときにしたとか、むちゃくちゃなことをわからずに説明されたらたまつたもんじゃねえ。筋を通してくれなんたら。これが議会じゃ。これこそルールなんじや。

○副議長（岡崎達義君） ルールに従っていきたいと思いますので。

○委員（原田素代君） ちょっといいですか。私も大人だから黙ってるけど、余りに一方的な言い分が、こういうきちとした委員会の席で通ってしまうというのは私は理解できませんよ。だから、大変御自分がどういう発言をしているかって自覚がないから続けられるんでしょうけど……。

○委員（北川勝義君） それも同じこっちゃがな。

○委員長（原田素代君） そもそもちゃんと選ばれて自分が立候補してお出になった委員会なんだから……。

○委員（北川勝義君） あんたらあ後から出てきて何をよんなら。関係ありやへんがな。

○委員（原田素代君） 後先は関係ないんです。

○議長（小田百合子君） 岡崎さんがしゃべり終わるくらいまで待ってくださいよ、原田さん。

○委員（原田素代君） いや、私今しゃべってたんですから。

○副議長（岡崎達義君） しゃべるのはいいんですけど、ここは委員長、副委員長を決める場ですので、自分たちの意見だけを述べるような場じゃありませんので。ですから、委員長、副委員長を決める方法を考えてください。とりあえず、委員長、副委員長を決めてからの話にし

てください。ですから、今推薦される方が2人いらっしゃったら2人でどちらかということで選挙をしたいと思いますので。

○委員（北川勝義君） 委員長、よろしい。

○副議長（岡崎達義君） はい。

○委員（北川勝義君） 立候補が優先というのはわかっとなよ。立候補も推薦も一緒に同等に扱やあええがというて僕が言ようるでしょ。なぜ言ようるか、もう表立ってやらんでもええんじゃねえかということを書いたかった。それで、さっきのとき、もとへ戻りゃあ、原田委員さんが立派なから、自分が今言われようること、言われたんじゃけど、僕はどっちにしようか言ようるときに、保田さんが原田さんを推薦しますと言うからな。決まってねえのにおかしからう、いう話から入っとなじゃからな。

○副議長（岡崎達義君） それは私のあれが悪かった。

○委員（北川勝義君） 原田さんの言い方が悪い、無責任がどうの、議員の資格はあなたが判断されよんじゃねえんじゃ。そういうこともあるんで。ただ1つ言うのは、もうこれで決まらんじゃったらどねえでもしてくれりゃよろしい、皆さんでそれは好きにすりゃあ。僕は別にどうこう、どうしても金谷さんにさせちゃりてえというんじゃのうて、今までの経験があつてやられようるから、経験のねえ人がやられてだらだら引っ張ったり、人を吊るしあげるようなことを長うやることがええんじゃったら。そうじゃねえ。2日間の限られた時間でやっていただきてえなど。できたら、それで6時ごろにゃあ終わってもらいてえんが、今までの経験で…

○副議長（岡崎達義君） ですから、それは委員会の中できちっとやっていただければいいわけで、とりあえず今は委員長、副委員長を決めたいと思いますので、なるべく早くやっていただきたいと思います。皆さん意思を表明してください。

○委員（原田素代君） ちょっと委員長、いいですか。発言してもいいですか。

○副議長（岡崎達義君） いいですけど、委員長、副委員長の選任に関しての発言にしてください。もうお互いが……。

○委員（原田素代君） あれだけ発言させといてそれはないでしょ。

○委員（北川勝義君） あんな、委員長……。

○副議長（岡崎達義君） もうよろしい。もうよろしい。もうよろしい。もうよろしい。もう選挙をします。

○委員（北川勝義君） 選挙にしてください。もう挙手でよろしいが。挙手でやりましようや。

○副議長（岡崎達義君） そうします。

○委員（北川勝義君） 簡単に。紙に書いてせんでも、挙手でよろしいが。

○副議長（岡崎達義君） 皆さんよろしいですか。

よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員（北川勝義君） 3人はもうする言よんじゃから。原田さんを推しますというて2人が言うたんじゃったら……。

○副議長（岡崎達義君） 私も入っていますんで。

○委員（北川勝義君） よろしいわ。今、じゃけえそういうことになるから、委員長になったらいけんから僕が話をしようるわけじゃ。よろしい、やってください。

○副議長（岡崎達義君） ほんならどちらから。先に推薦された方。

原田委員を委員長にということではよろしい人は挙手をお願いします。

○委員（北川勝義君） それを委員長したらおえんのん、今。同数になってからじゃなかったらおえんの。岡崎さん……。

○副議長（岡崎達義君） わかった。

○委員（北川勝義君） そういう決め方をするから僕がだめだということを先に……。

○副議長（岡崎達義君） わかった。

○委員（北川勝義君） じゃけえおえんのん、そういう決め方したら。

○副議長（岡崎達義君） ほんなら、原田委員は2人。

○委員（福木京子君） 手を今挙げるんでしょ、もう一回。

○副議長（岡崎達義君） はい、もう一度。3人、本人を入れて3人。

それから、金谷委員。3人。私は原田委員。

○委員（北川勝義君） じゃあからな話を2人でしてもろうた方がええいうのを僕が言いたかった。ということになるからというて言うたわけ。

○副議長（岡崎達義君） わかりました。

ほんなら、それで一応多数決で原田委員ということに決まりましたので。

○委員（北川勝義君） 委員長のあれで決まったということにしてくださいよ。

○副議長（岡崎達義君） 委員長に原田委員が決まりました。

○委員（北川勝義君） 違う違う、委員長のあれで最後は決まったというてやってくれにやあ。

○副議長（岡崎達義君） ああ、私がね。私の裁決で決まりましたので、よろしくをお願いします。

なら、かわりますので。

〔委員長交代〕

○委員長（原田素代君） それでは、引き続き副委員長の互選に移らせていただきますが、副委員長のほうの互選の方法についてはいかがいたしましょうか。御意見をお願いいたします。

○委員（福木京子君） 立候補があればしていただければ。

- 委員長（原田素代君） いや、まず方法について。推薦もしくは立候補ということで。
はい、岡崎委員。
- 副議長（岡崎達義君） もし立候補される方があるんだったら立候補してもらえばいいんじゃないですか。
- 委員長（原田素代君） 先に。
- 副議長（岡崎達義君） はい。
- 委員長（原田素代君） じゃあ、副委員長の立候補をお願いいたします。おやりになっていただける方。
- 委員（北川勝義君） 委員長。
- 委員長（原田素代君） 北川委員。
- 委員（北川勝義君） 岡崎委員の言うた反対で、もう委員長を決めたときに推薦したんじゃから推薦にしたほうがええ、それは考え方として。そうせなんだらやりにくうなると思うようになるんで。せえで、言うたら誰も今言うた人は逆のほうは受けまあから、委員長がええ人を選ばれりゃあええんじゃねえん。自分に賛同してくれた人。
- 委員長（原田素代君） という御意見もありました。
立候補がもしないようでしたら、とりあえず推薦をいただいてどなたかしていただきたいと思う方をお願いします。
- 委員（佐々木雄司君） ちょっと済みません。
- 委員長（原田素代君） はい、佐々木委員。
- 委員（佐々木雄司君） 確認なんですけど、私も初めてのことなのでちょっとよくどういう役目になるのかというのはわからないんですけど、副委員長はどういった役目になりますか。
- 委員長（原田素代君） 普通に補佐の立場です。
- 委員（佐々木雄司君） 補佐の立場で。普通の一般の委員として当然ながら意見交換、そういったところに参加できるわけですよ。
- 委員長（原田素代君） もちろんそうです。
- 委員（佐々木雄司君） 議事進行に努めることをメインとするわけじゃないですよ。
- 委員長（原田素代君） 基本は補佐ですけど、ただ委員長よりはずっと発言は自由にしているだけ……。
- 委員（佐々木雄司君） できるということですね。ありがとうございます。
- 委員長（原田素代君） おやりになりますか。
- 委員（佐々木雄司君） やりましょうか、なら。
- 委員長（原田素代君） いやいやいや、ちょっとほかの方で。
- 委員（北川勝義君） やりましょうかというて、ならほかの方でといったらそれはまたおかしい。おかしげなことを。

○委員長（原田素代君） いらっしやれば。

いいですか。

○委員（福木京子君） 推薦してもええん。

○委員長（原田素代君） 福木さん。

○委員（福木京子君） 保田さん。

○委員（北川勝義君） やりましょうかという人がおるのに。

○委員（福木京子君） ああそうかそうかそうか。

○委員長（原田素代君） いやいや、それはまだ推薦の話ですからいいですよ。同じです。

○委員（福木京子君） 推薦でしょ、今。

○委員（北川勝義君） やりましょうかというて本人が言うたら……。

○委員長（原田素代君） 推薦を求めてますからいいです。

○委員（北川勝義君） ええ、何でもしてもらやあ。すりゃあええがもうでたらめ。よろしい
よろしい。

○委員長（原田素代君） 佐々木さん、じゃあ今話の流れで受けてもいいという御発言があっ
たんですけど、じゃあ福木さんが御推薦いただいた保田さんのほうと……。

○委員（北川勝義君） そりゃ今受けたのは、委員長が推薦したんじゃろう。

○委員長（原田素代君） 違う。

○委員（北川勝義君） 受けますかと言うたんじゃねえんか。違うんか。ほんなら違うんじゃ
ったら違うというて推薦してもらわにやあ、委員長は推薦せん言よんじゃけえほかの者が推薦
してもらわな。今は福木さんが推薦したのは保田さん……。

○委員長（原田素代君） 北川委員、私が委員長なので進めさせていただきます。

○委員（北川勝義君） 違う違う。ちょっと委員長。

○委員長（原田素代君） あのね。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（原田素代君） ちょっと、今もう進んでますから、推薦……。

○委員（北川勝義君） 違うがな。ちょっと聞いてえよ。委員長聞いてえよ。あなたが役目を
聞いてよろしいか、やりますかというけえ、ほんならやりましょうかというてこういう言う
たん。じゃけえそのことを言うたん。ほんなら、福木さんは今度は保田さんを推薦された。こ
こまではええんじゃ。今言うた、じゃけえ僕の言うたのはやりますかと言うた、委員長が推薦
したんかなというて聞きようるわけ。違うんじゃったら佐々木さんは推薦を誰にもされてねえ
ということを言ようるわけじゃ、保田さんしか今。ということ言よんじゃ。

○委員長（原田素代君） ですから、今推薦のテーブルに上がっているのが佐々木さんと…
…。

○委員（北川勝義君） いや、何で佐々木さんが上がったん、じゃけん。ちょっと違うな、今

違おう。

○委員長（原田素代君） やりとりを聞いているでしょう。だから今……。

○副議長（岡崎達義君） 最初、北川委員は立候補も推薦も同じように扱えばええと言った。そうしたら、今委員長がいろいろ言われてたように、福木委員は保田さんを推薦し……。

○委員（北川勝義君） そうそう、今出たな。

○副議長（岡崎達義君） 佐々木委員は自分がやってもいいと言われた。

○委員（北川勝義君） やってもええというよりやられたらいいですよと言うたけえ、推薦と今のそれは微妙なところがあったから、それはどっちでもええんじや。

○副議長（岡崎達義君） だから……。

○委員（北川勝義君） だから、正式に……。

○委員長（原田素代君） 同等に扱います。

○委員（北川勝義君） 正式な推薦をされとらんということを言いたかったわけ。立候補したん。

○委員長（原田素代君） だから、同等に扱います。

○委員（北川勝義君） 立候補したん。立候補じゃったら立候補言うてえよ。立候補じゃねえんじやろ。

○委員長（原田素代君） 静粛に。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 僕がどういう思いでやりましょうかというようなことを言ったのか、確認をとらずに僕の気持ちを皆さん勝手におっしゃられているんで、ちょっと聞いていただきたいと思います。

委員長、聞いていただいていいですか。

○委員長（原田素代君） どうぞ。

○委員（佐々木雄司君） もしどなたもおやりになられる方がいらっしゃらないのであれば、僕のほうが副委員長のほうに立候補させてもらいたいと思います。

○委員長（原田素代君） そうしましたら、立候補という御意見があったんで。

保田さんはどうされますか、立候補されますか、受けて。

○委員（北川勝義君） ちょっと待て、立候補じゃねえ。

○委員長（原田素代君） さっきと一緒なんです。

○委員（北川勝義君） ちょっと待って。

○委員長（原田素代君） 北川委員、黙って……。

○委員（北川勝義君） あんたそねえなことばあ言ようたらおえん。あんたが違う、ここは違うとる。これから保田さん立候補しますじゃねえ、保田さんは推薦したんで、推薦も立候補も一緒に扱いましょうというて委員長と、それを決めたんじやが。それを言よんで。保田さん、

今度はある人も立候補しますかというのはおかしいわや。立候補も推薦も一緒じゃが、今。

○委員長（原田素代君） さっき同じだったです、推薦されてから立候補を確認されたので…
…。

委員長に任せてください、北川委員。

○委員（北川勝義君） 任せれんって、せえだったらもう。もうしつけえことばあ言ようる。

○委員長（原田素代君） 保田さんどうされますか。

○委員（北川勝義君） そんな話じゃねえ。

○委員（保田 守君） やらせていただきます。

○委員長（原田素代君） そうですか。そうしたら、じゃあお二人が立候補ということなので、もう一度選挙ということで。

○委員（北川勝義君） 委員長、よろしいか。

○委員長（原田素代君） はい、どうぞ。

○委員（北川勝義君） 僕が言いたかったのは、立候補も推薦も一緒にしましょうと委員長のときにしたから、一緒にしましょう、同等扱いにしましょうというて言うたわけ。せえで、それはそれでえかって、委員長がなかったら副委員長もねえと思うたから、やりとりのとこで勘違いかどうかわからんで今正式に立候補されたけど、今のようなそういうことで保田さんに立候補しますかというの、保田さんは立候補せられんでも、僕の言い分は福木さんが推薦したんで同等で立候補も推薦もやって。本来は、立候補が上なのはわかり切つとるこっちゃけど、今この中で決めたんよ。そういうことをやってくれえということ。僕がさっき言ようたわな。黙りなさい、私が委員長じゃけえ。委員長の名前出すのは間違うとる。確認をテープ起こしてみりゃあそのとおりにきょんじゃから。じゃけえ、今は保田さんが立候補して下さったけど、立候補せんでも僕は同じじゃということと言いたかったんじゃ。そこだけは間違わんようにしてください。

○委員長（原田素代君） 立候補がお二人になりましたので、先ほどと同じように挙手での採択にさせていただいてよろしいでしょうか。

よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしたら、じゃあ先に佐々木さんのほうですから、佐々木委員に副委員長を決めたいという方は挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○委員長（原田素代君） わかりました。

そうしたら、保田委員に副委員長の方はお手を挙げてください。

〔賛成者挙手〕

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

そうしましたら、副委員長に保田委員をお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

じゃあ、一応副委員長はこちらにおいでになるそうなので。

それではどうぞ、席へ着いてください。

それでは、次回の決算委員会については皆さんの御協力のほどをくれぐれもお願いしたいと思います。

それでは、これで第1回決算審査特別委員会を閉会といたします。

御苦労さまでした。

午後2時17分 閉会